

ピクテ・ゴールドデン・
リスクプレミアム・ファンド
愛称: ポラリス

追加型投信／内外／資産複合

第5期(決算日2024年8月15日)

作成対象期間：2023年8月16日～2024年8月15日

第5期末(2024年8月15日)	
基準価額	16,660円
純資産総額	76,311百万円
第5期	
騰落率	18.3%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

受益者のみなさまへ

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記の弊社ホームページを開き「ファンド」より当ファンドの名称を選択いただき、さらに「運用報告書(全体版)」を選択いただきますと運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 書面での運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、「ピクテ・ゴールドデン・リスクプレミアム・ファンド」は、このたび、第5期の決算を行いました。当ファンドは、投資信託証券への投資を通じ世界の株式、金、債券、リート等に投資することにより、信託財産の成長を図ることを目的としております。当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内2-6-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

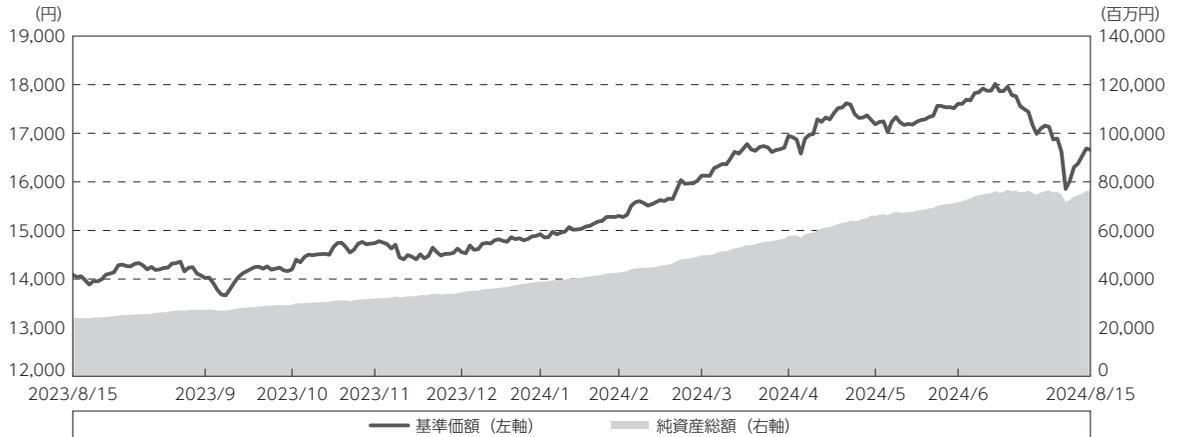
電話番号 03-3212-1805

受付時間：委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ：www.pictet.co.jp

運用経過

基準価額等の推移



期 首：14,087円

期 末：16,660円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率： 18.3%

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

基準価額の主な変動要因

- 上昇↑・実質的に組入れている金の価格が上昇したこと
- 上昇↑・実質的に組入れている株式の価格が上昇したこと
- 上昇↑・実質的に組入れている債券の価格が上昇したこと
- 下落↓・為替ヘッジコスト

1 万口当たりの費用明細

(2023年8月16日～2024年8月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	176	1.127	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(60)	(0.385)	・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価
(販 売 会 社)	(111)	(0.715)	・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価
(受 託 会 社)	(4)	(0.027)	・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	0	0.002	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.002)	・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.000)	・有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	2	0.015	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(0)	(0.000)	・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(2)	(0.013)	・その他は、目論見書、運用報告書等法定の開示書類の作成等に要する費用その他信託事務の処理等に要する諸費用
合 計	178	1.144	
期中の平均基準価額は、15,586円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

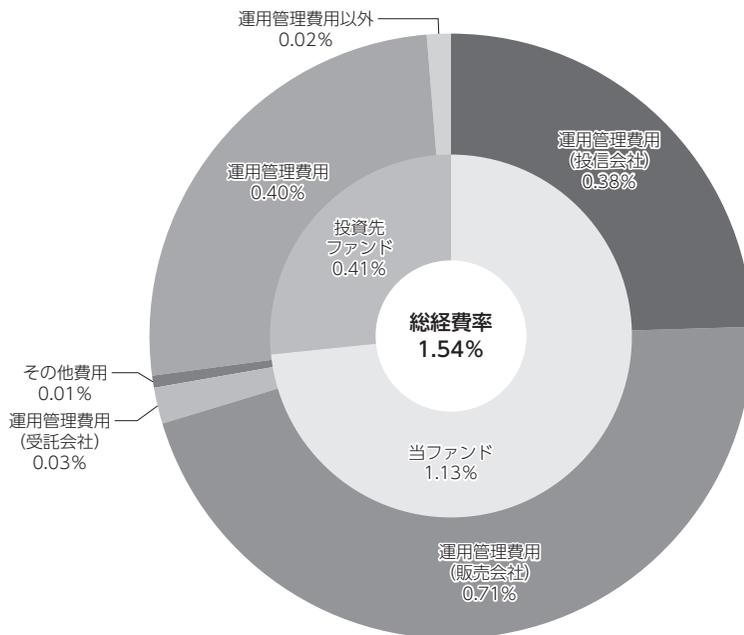
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.54%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.54
①当ファンドの費用の比率	1.13
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.40
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.02

(注) ①の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券です。

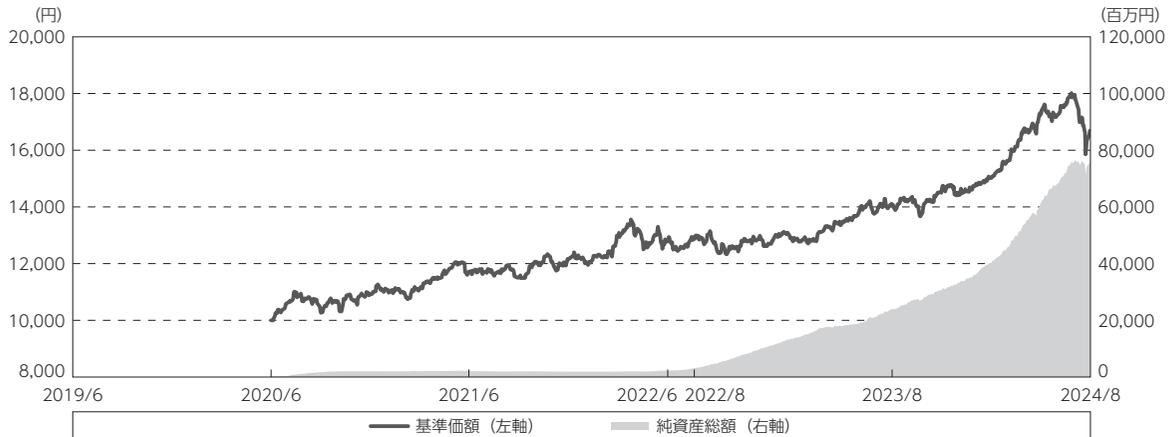
(注) ①の費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) ③その他費用の比率が入手できない投資信託証券の場合、②運用管理費用の比率に総経費率を集計しています。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移 (2019年6月25日～2024年8月15日)



(注) 当ファンドの設定日は2020年6月26日です。

	2020年6月26日 設定日	2021年6月25日 決算日	2022年6月27日 決算日	2022年8月15日 決算日	2023年8月15日 決算日	2024年8月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,714	12,803	12,944	14,087	16,660
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	17.1	9.3	1.1	8.8	18.3
純資産総額 (百万円)	238	2,105	2,266	3,123	24,023	76,311

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2021年6月25日の騰落率は設定当初との比較です。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

投資環境

- 世界の株式市場は、2023年8月下旬以降は、ユーロ圏や中国景気の先行き不透明感、米国における国債増発などを受けた高金利環境の長期化懸念などから、10月にかけて下落基調で推移しました。その後2024年3月にかけては、米連邦準備制度理事会（FRB）や欧州中央銀行（ECB）の早期利下げへの期待感、堅調な米国経済指標や欧州の景況感の改善、半導体関連企業など主要企業の良好な決算などを背景に上昇しました。4月には、同月に発表された米消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回るなど物価の高止まり懸念が高まったことや中東情勢への悪化懸念などから下落しました。その後は、物価の高止まり懸念が和らいだことなどを背景に7月中旬にかけて世界の株式市場は上昇したものの、期末にかけては米国の景気減速への懸念などを受けて、世界の株式市場は軟調に推移しました。
- 世界の国債市場は、2023年10月にかけては、根強いインフレ圧力などを背景にFRBやECBなど主要国・地域の中央銀行による金融引き締めが長期化するとの見方が強まったことなどを背景に、下落（利回りは上昇）しました。11月から12月末にかけては、欧米をはじめとする主要先進国においてインフレ水準の鈍化がみられたことから、FRBなどの主要国・地域中央銀行の利上げ終了観測および早期利下げ期待が高まったため、世界の国債市場は上昇（利回りは低下）しました。その後は、堅調な米景気指標や、底堅い賃金データなどを背景にFRBやECBが利下げ開始を急がない姿勢を示したことから、世界の国債市場は下落（利回りは上昇）しました。2024年4月上旬にかけては、FRBおよびECBなどの早期利下げに対する慎重な姿勢や、米国国債の需給悪化懸念などが意識された一方、FRBやECBの早期利下げ観測も根強くあり、もみ合う動きとなりました。4月半ば以降は、同月の米CPIが市場予想を上回るなど物価の高止まり懸念が再熱したほか、ユーロ圏の経済指標の改善なども意識され、5月にかけて下落（利回りは上昇）しました。6月から期末にかけては、ECBが利下げを実施したほか、米国での軟調な経済指標を受けてFRBの利下げ観測が強まったことなどを背景に世界の国債市場は上昇（利回りは低下）しました。
- 為替市場では、2023年11月中旬にかけては、米大手格付け会社による米国国債の格下げや米国国債の増発懸念、根強いインフレ圧力を受けて米長期金利が上昇したことから、円安・米ドル高が進行しました。その後は、米国のインフレ圧力鈍化や労働市場の需給緩和の兆しなどを背景にFRBの利下げ期待が高まったほか、日本銀行の金融緩和政策の修正観測などを受けて、2023年の年末にかけて円高・米ドル安となりました。2024年の年初から2月にかけては、堅調な米景気指標やFRB高官からの市場利下げ織り込みをけん制する発言などを受けて、円安・米ドル高となりました。7月上旬ごろまでは、日本銀行がマイナス金利を解除したことや日本政府・日本銀行の為替介入への警戒感などから一時的に円高・米ドル安の動きとなる局面もありましたが、総じてみれば日米の金利差が意識されたことなどを背景に円安・米ドル高傾向で推移しました。その後期末にかけては、日本銀行が追加利上げに踏み切ったことや、7月の米雇用統計が市場予想を下回りFRBの早期利下げ観測が強まったことなどから円高・米ドル安が進行しました。

当該投資信託のポートフォリオ

投資信託証券への投資を通じて実質的に世界の株式、金等への投資を行うことにより、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行ってまいりました。

2023年9月は、株式部分では、世界高配当公益株式および新興国高配当株式の組入比率を引き下げました。債券部分では、組入比率に大きな変更はありませんでした。金部分では、金（為替ヘッジなし）の組入比率を引き上げました。

10月は、株式部分では、新興国高配当株式の組入比率を引き上げました。債券部分では、米ドル建て新興国債券（ETF）を売却し、米ドル建て新興国債券への投資を開始しています。金部分では、組入比率に大きな変更はありませんでした。

11月は、株式部分では、世界高配当公益株式の組入比率を引き上げた一方、世界株式の組入比率を引き下げました。債券部分では、米ドル建て新興国債券の組入比率を引き下げ、世界ESG関連社債の組入比率を引き上げました。金部分では、金の組入比率を一部引き下げました。

12月は、株式部分では、世界高配当公益株式の組入比率を引き上げた一方、新興国高配当株式の組入比率を引き下げました。債券部分では、世界ESG関連社債の組入比率を引き下げました。金部分では、金の組入比率を一部引き下げました。

2024年1月は、株式部分では、新興国高配当株式および世界株式の組入比率を引き上げた一方、世界高配当公益株式の組入比率を引き下げました。債券部分では、世界ESG関連社債の組入比率を引き上げました。金部分では、金の組入比率に大きな変更はありませんでした。

2月は、株式部分では、新興国高配当株式および世界株式の組入比率を引き上げました。債券部分では、世界ESG関連社債の組入比率を引き下げました。金部分では、金（為替ヘッジなし）の組入比率を引き下げました。

3月は、株式部分では、新興国高配当株式および世界株式の組入比率を引き下げました。債券部分では、米ドル建て新興国債券および世界ESG関連投資適格社債の組入比率を引き下げました。金部分では、金（為替ヘッジなし）の組入比率を引き上げました。

4月は、株式部分では、新興国高配当株式および世界高配当公益株式の組入比率を引き上げ、世界株式の組入比率を引き下げました。債券部分では、米ドル建て新興国債券の組入比率を引き上げ、世界ESG関連投資適格社債の組入比率を引き下げました。金部分では、金（為替ヘッジなし）の組入比率を引き下げました。

5月は、株式部分では、世界高配当公益株式および新興国高配当株式の組入比率を引き上げました。債券部分では、世界ESG関連投資適格社債の組入比率を引き下げました。金部分では、金（為替ヘッジなし）の組入比率を引き上げました。

6月は、株式部分では、世界株式および世界高配当公益株式の組入比率を引き上げました。債券部分では、世界ESG関連投資適格社債の組入比率を引き下げました。金部分では、金（為替ヘッジなし）の組入比率を引き下げました。

7月は、株式部分では、世界株式などの組入比率を引き下げました。債券部分では、世界ESG関連投資適格社債の組入比率を引き下げました。金部分では、金（為替ヘッジなし）の組入比率を引き上げました。

当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

分配金

当期の収益分配は、見送りとさせていただきます。
 なお、留保益については、元本部分と同一の運用を行います。

◆分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 5 期
	2023年 8月16日～ 2024年 8月15日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,660

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(1) 投資環境

米国の雇用や景況感の鈍化を背景に米国の景気悪化懸念がにわかに台頭しています。しかし米国の家計や企業は健全であり、足下で調整色が強まっている株価も割高感が解消されれば落ち着きを取り戻すと見ています。ただし日本銀行の金融政策正常化に伴って市場の変動率が急上昇している点を考慮する必要があります。

(2) 投資方針

投資信託証券への投資を通じて実質的に世界の株式、金、債券、リート等への投資を行うことにより、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行ってまいります。

上記の環境下、リスク資産の比率をやや削減すると同時に、銘柄入れ替えを適宜行うことで、ファンドの安定運用に努めていく方針です。株式では引き続き、優良株・ディフェンシブ株主体の銘柄選択を継続します。債券については、欧米の財政悪化懸念や日本銀行の国債買入れ減額の影響を見極めるため、中立的なスタンスを維持します。引き続き、インカム収益が見込まれる世界社債および新興国債券への投資を維持していきます。為替については、日本銀行の政策修正に伴う為替市場のボラティリティ上昇に警戒し、為替ヘッジ比率引き上げの検討を継続していきます。金については、中長期の強気見通しに変わりはありません。引き続き、昨今の地政学的リスクに加えて、金は株式や債券などの伝統的資産クラスとの相関が低く、インフレに強い性質を有するとみられていることから、分散投資において重要かつ戦略的資産の位置づけであると判断します。一方で、FRBが市場の予想に反して金融引き締め姿勢を継続した場合、金利上昇および米ドル高が金価格下落につながる可能性もあるため、引き続き金を取り巻く環境は冷静にみていくことが重要であるといえます。

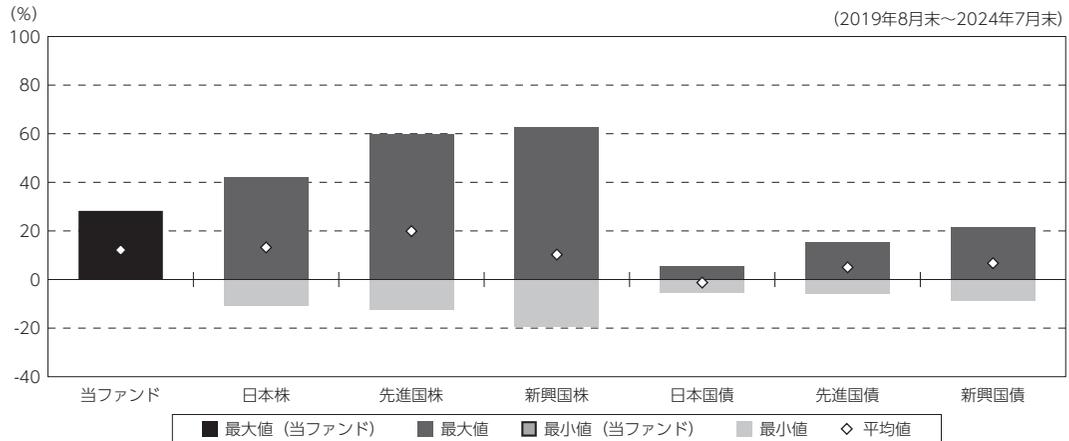
お知らせ

投資対象とする投資信託証券の追加および削除のため、デリバティブ取引はヘッジ目的にのみ行われていることを明確化するためならびに投資信託証券を通じて間接的に保有する外貨建資産につき為替ヘッジを行うことがある旨を明確化するため、所要の約款変更を行いました。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2020年6月26日（当初設定日）から無期限です。
運用方針	投資信託証券への投資を通じて実質的に世界の株式、金、債券、リート等への投資を行うことにより、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行います。
主要投資対象	投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ①投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む世界の株式、金、債券、リート等への投資を行います。 ②投資信託証券への投資にあたっては、世界の市場環境に応じて魅力的なリスクプレミアムが期待できる資産を選定し、配分比率の決定を行います。 ③投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。 ④外貨建資産については、為替ヘッジが必要と判断した場合は為替ヘッジを行う投資信託証券に投資することがあります。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ②投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託の受益証券以外の有価証券への直接投資は行いません。 ③外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	28.2	42.1	59.8	62.7	5.4	15.3	21.5
最小値	0.2	△ 10.8	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	12.1	13.2	19.9	10.3	△ 1.3	5.0	6.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2019年8月から2024年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2021年6月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

○各資産クラスの指標

日本株 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株 MSCI コクサイ指数 (税引前配当込み、円換算)

新興国株 MSCI エマージング・マーケット指数 (税引前配当込み、円換算)

日本国債 NOMURA - BPI 国債

先進国債 FTSE 世界国債指数 (除く日本、円換算)

新興国債 JP モルガン GBI - EM グローバル・ディバーシファイド (円換算)

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジをしない投資を想定して、ドルベースの各指数を委託者が円換算しております。

当該投資信託のデータ

当該投資信託の組入資産の内容

(2024年8月15日現在)

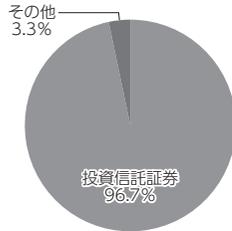
■組入上位ファンド

銘 柄 名	第5期末 %
ピクテ(CH)プレシャス・メタル・ファンドーフィジカル・ゴールドクラスI dy JPY	44.8
ピクテ世界株式ファンド(適格機関投資家専用)	14.2
ピクテ・グローバル・セレクション・ファンドーグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド	14.0
その他	23.7
組入銘柄数	7銘柄

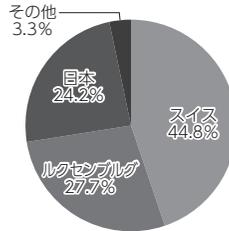
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

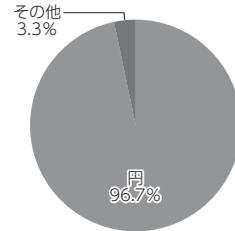
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等(日本・円)を含む場合があります。

純資産等

項 目	第5期末
	2024年8月15日
純 資 産 総 額	76,311,350,264円
受 益 権 総 口 数	45,804,754,455口
1万口当たり基準価額	16,660円

(注) 当期中における追加設定元本額は35,966,996,866円、同解約元本額は7,215,845,696円です。

組入上位ファンドの概要

ピクテ (CH) プレシャス・メタル・ファンドーフィジカル・ゴールド クラス I dy JPY

■基準価額の推移



(注) 基準価額の推移は当組入ファンドの直近の計算期間のものです。

■組入上位10銘柄

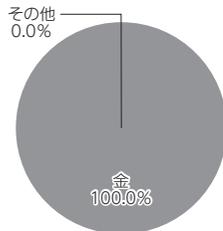
(2023年9月30日現在)

	銘柄	比率
		%
1	GR.GOLD (BAR 12.5KG 995 OR BEST)	94.2
2	GR.GOLD (BAR 1KG 999.9)	5.8
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
組入銘柄数		2銘柄

(注) 比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) に記載されています。

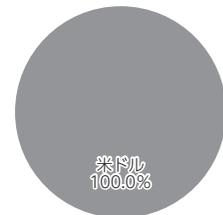
■資産別配分



■国別配分

該当事項ありません。

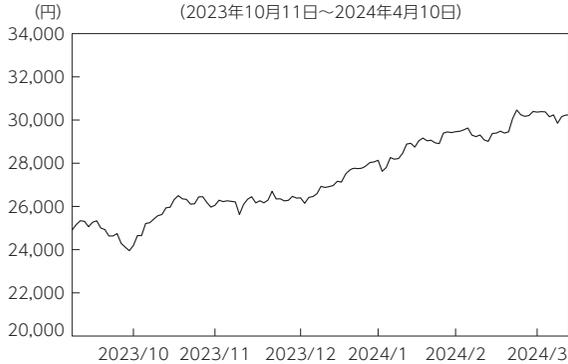
■通貨別配分



(注) 資産別配分の比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合、通貨別配分の比率は当組入ファンドが組入れている金の評価額合計に対する割合です。

ピクテ世界株式ファンド(適格機関投資家専用)

■基準価額の推移



■1万口当たりの費用明細

(2023年10月11日～2024年4月10日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	91 (85) (1) (5)	0.330 (0.311) (0.003) (0.016)
(b) 売買委託手数料 (株 式)	2 (2)	0.007 (0.007)
(c) 有価証券取引税 (株 式)	6 (6)	0.021 (0.021)
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	5 (4) (1) (0)	0.016 (0.014) (0.002) (0.000)
合 計	104	0.374

期中の平均基準価額は、27,433円です。

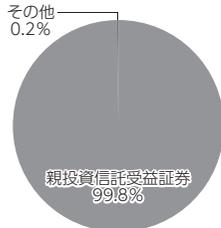
- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
- (注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

■組入上位ファンド

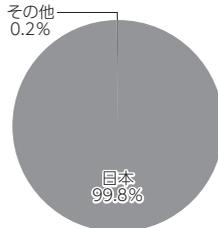
銘 柄 名	第15期末
ピクテ・メジャー・プレイヤーズ・マザーファンド	% 99.8
組入銘柄数	1銘柄

- (注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
- (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

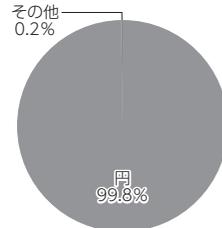
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分

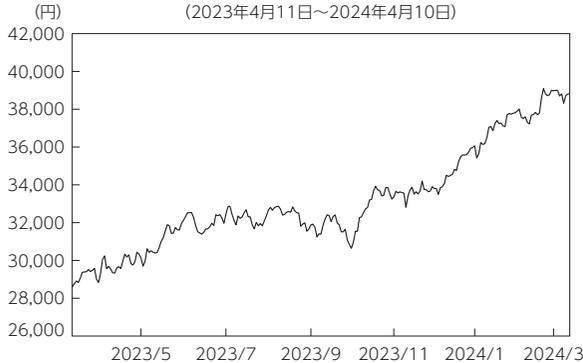


- (注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
- (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
- (注) その他にはコール・ローン等(日本・円)を含む場合があります。

ピクテ世界株式ファンド（適格機関投資家専用）における組入上位ファンドの概要

ピクテ・メジャー・プレイヤーズ・マザーファンド

■基準価額の推移



■1万口当たりの費用明細

(2023年4月11日～2024年4月10日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	5 (5)	0.016 (0.016)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	8 (8)	0.024 (0.024)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	9 (9) (0)	0.028 (0.028) (0.000)
合計	22	0.068

期中の平均基準価額は、33,319円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

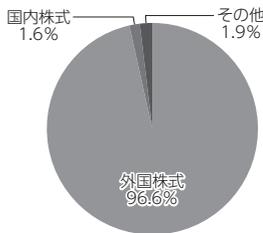
■組入上位10銘柄

(2024年4月10日現在)

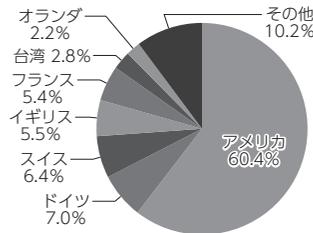
順位	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	AMAZON.COM INC	一般消費財・サービス流通・小売り	米ドル	アメリカ	3.1
2	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	半導体・半導体製造装置	米ドル	台湾	2.8
3	ALPHABET INC-CL C	メディア・娯楽	米ドル	アメリカ	2.7
4	MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	米ドル	アメリカ	2.6
5	UBER TECHNOLOGIES INC	運輸	米ドル	アメリカ	2.3
6	SALESFORCE INC	ソフトウェア・サービス	米ドル	アメリカ	2.3
7	SYNOPSYS INC	ソフトウェア・サービス	米ドル	アメリカ	2.2
8	ASML HOLDING NV	半導体・半導体製造装置	ユーロ	オランダ	2.2
9	CONOCOPHILLIPS	エネルギー	米ドル	アメリカ	2.2
10	QUALCOMM INC	半導体・半導体製造装置	米ドル	アメリカ	2.1
組入銘柄数			51銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
 (注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

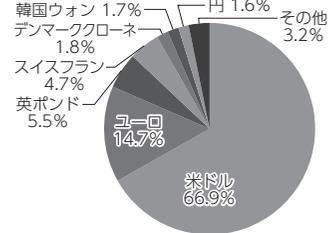
■資産別配分



■国別配分



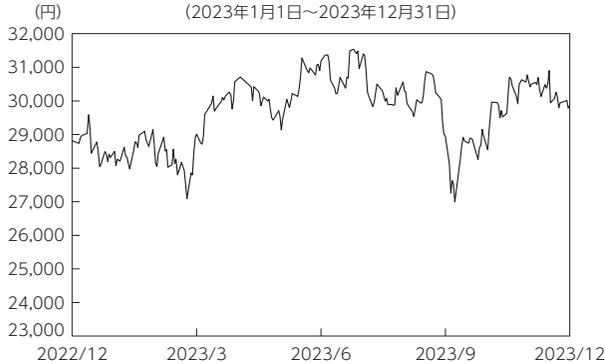
■通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
 (注) その他にはコール・ローン等(日本・円)を含む場合があります。

ピクテ・グローバル・セレクション・ファンドーグローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド

■基準価額の推移



(注) 基準価額の推移は当組入ファンドの直近の計算期間のものです。

■組入上位10銘柄

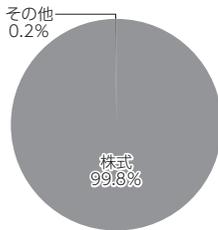
(2023年12月31日現在)

	銘柄	比率
		%
1	PG & E	5.0
2	R.W.E.	5.0
3	SEMPRA ENERGY	4.8
4	SOUTHERN COMPANY	4.5
5	NEXTERA ENERGY	4.5
6	SCOTTISH & SOUTHERN ENERGY	4.3
7	NATIONAL GRID	4.2
8	EXELON	4.2
9	DTE ENERGY	4.2
10	WEC ENERGY GROUP	3.7
	組入銘柄数	51銘柄

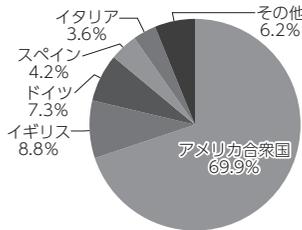
(注) 比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

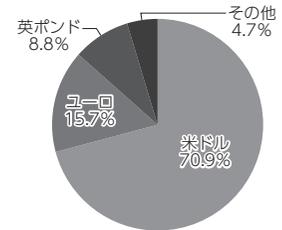
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注) 資産別配分の比率は当組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分および通貨別配分の比率は当組入ファンドの組入有価証券の評価額合計に対する割合です。

指数に関して

○ 「代表的な資産クラスと騰落率の比較」に用いた指数について

■ 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) :

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」といいます。) に帰属します。JPXは、同指数の指数値およびそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。JPXは同指数の算出もしくは公表方法の変更、同指数の算出もしくは公表の停止または同指数の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

■ MSCI コクサイ指数 (税引前配当込み) :

MSCI コクサイ指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■ MSCI エマージング・マーケット指数 (税引前配当込み) :

MSCI エマージング・マーケット指数は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、同指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

■ NOMURA – BPI 国債 :

NOMURA – BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。同指数の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また同社は同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、当ファンドの運用成果に関して一切責任を負いません。

■ FTSE 世界国債指数 (除く日本) :

FTSE 世界国債指数 (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券指数です。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

■ JP モルガン GBI – EM グローバル・ディバースィファイド :

JP モルガン GBI – EM グローバル・ディバースィファイドは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的な指数です。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。